

—茨木・宇野辺駅周辺地区—

「複合モビリティ—ポート社会実験」

報告書(概要版)

平成17年1月

NPO法人地域デザイン研究会

茨木・宇野辺駅周辺地区複合モビリティポート
社会実験
—実施とその結果について—

平成17年1月

NPO法人地域デザイン研究会

報告事項

1. 茨木駅・宇野辺駅周辺地区の現状
2. 周辺地区の問題点と課題
3. 問題への対応方針
4. 社会実験の実施計画
5. 実施状況
6. 実験内容の分析と評価
7. 社会実験の効果と得られた知見
8. 事業実施のための今後の展開と提案

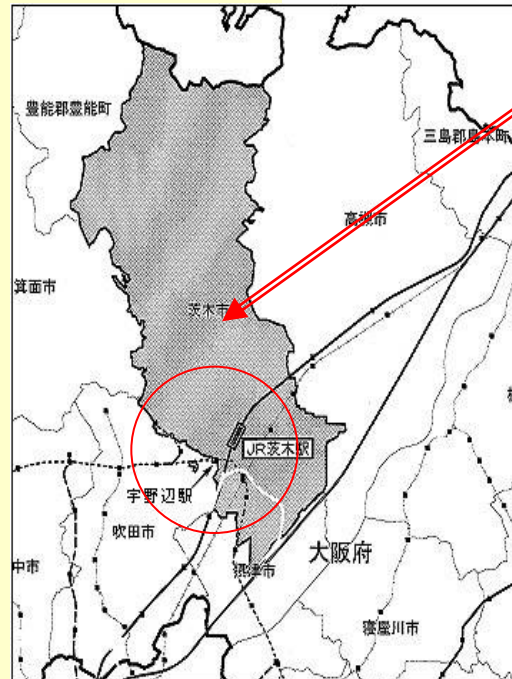
社会実験 実施位置図

【茨木市の概要】

■茨木市は大阪市から約20kmに位置する、片桐且元の城下町

■明治期の鉄道開通以降は工業都市として発展

■国土軸上の交通要衝地としての特徴を生かし、国際文化公園都市等の新市街地建設と特徴ある情報拠点づくりなど文化の香り高い都市の建設を目指す。



茨木駅・宇野辺駅周辺地区の現状

■ 茨木市の現況

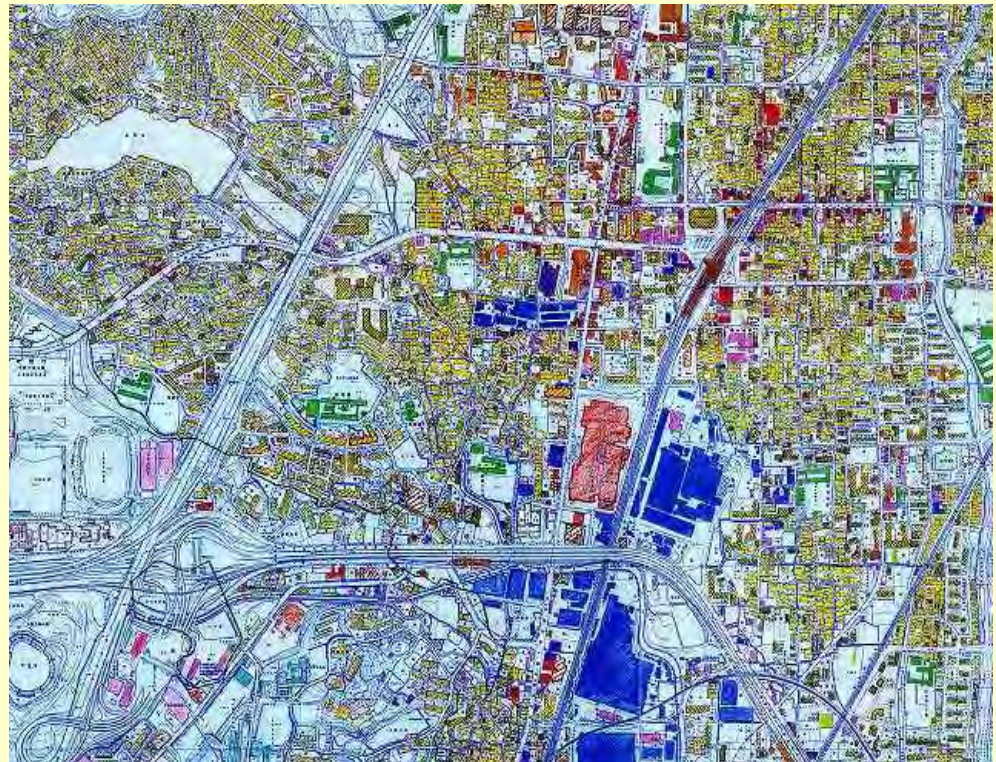
- ・人口:261,751人(12.10.1国調) 世帯数:99,094世帯
- ・人口密度33.75人/m²、高齢化率9.9%、昼夜間比率91.9%

■ 周辺地区の特性

- ・住宅地とJR沿線の大規模工場が混在するが商業等へ変化
- ・JT跡地にマイカル進出

■ 交通の特性

- ・JR京都線、阪急京都線に加え大阪モノレールが開業
- ・道路は万博開催時から茨木鮎川線が供用。



JR茨木・宇野辺駅周辺地区の問題点と課題

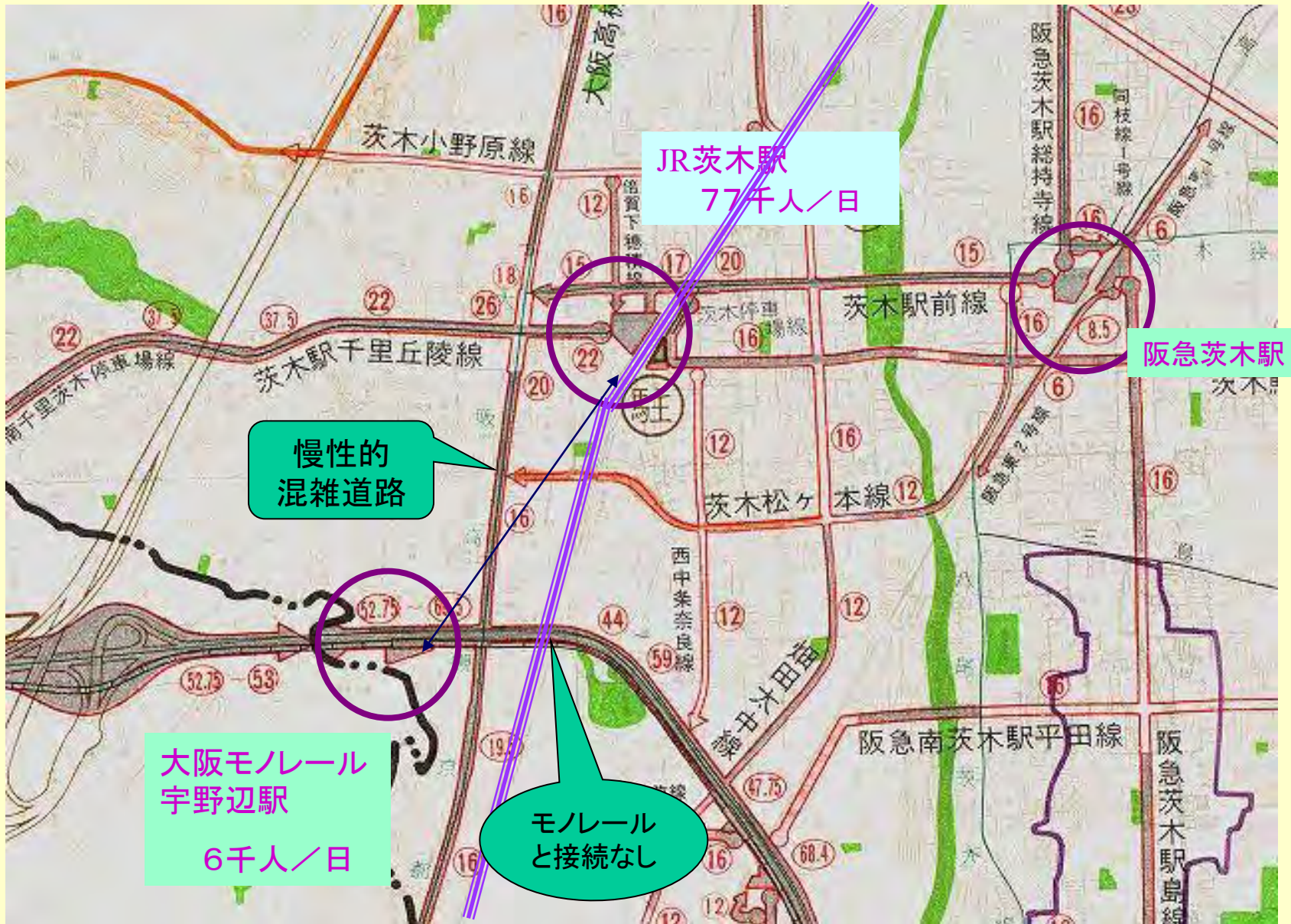
■ 街の活性化のための課題

- ・JR茨木駅前には昭和45年の万国博時点で整備され、見直し等リニューアル必要
- ・モノレール宇野辺駅周辺は開業以来余り変化せず、駅前広場の利用も少ない
- ・駅をはじめ街全体の活性化は、ここ数年大阪高速鉄道(株)を中心に検討されその具体化が望まれている。

■ 交通の課題

- ・当該地区は、都市計画的にはほぼ完了した地域である。
- ・しかし、工場からの転換＝マイカル等の大規模施設の立地は交通に大きな影響
- ・またJR京都線と大阪モノレールとの接続は長年の課題
- ・鉄道・道路及び徒歩・自転車を含めた交通計画が必要な地域

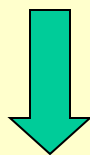
交通の現況図



問題への対応方針

【基本的考え方】

- 1- 改良及び計画策定の余地のある大阪高速鉄道【宇野辺駅】において施策を展開する
- 2- JR茨木や周辺地域と連携しつつ具体化する



【具体的な方策】

1. 宇野辺駅前を賑やかで人々の集まる空間とする
2. 高架下空間を活用する
3. レンタサイクルシステムを具体的に展開する
4. JRとの接続を目標に具体策を提案する

交通問題を提起

地域活性化策
へ展開

地域連携を図
る

行政課題とし
て展開する

社会実験の実施計画

1. 社会実験の目的

国土交通省の16年度社会実験は、「暮らしのみちゾーン・トランジットモール」および「オープンカフェ等地域主体の道活用」である。

茨木。宇野辺駅周辺地区の課題に対応するためにはこの両者の目的を兼ね備えた社会実験を行うことが必要である。特に人々の交流の基本施設である道路等の空間がどのようにすれば活用でき、今後の重要な社会資本として整備されねばならないかについての【知見】を得ることを今回の社会実験の大きな目的としている。

1. 複合モビリティポートの設置
JR茨木駅・マイカル・宇野辺駅

2. オープンカフェの設置
宇野辺駅でのオープンカフェとイベント

—ねらい—

- 道路空間の活用
- 公共空間の賑わいと魅力の向上
- 公共交通機関の利用の促進
- 地域に直結した施策の展開

2. 社会実験の実施体制

【実施主体】

茨木・宇野辺駅周辺地区複合モビリティポート
社会実験実行委員会

委員長：NPO法人地域デザイン研究会代表

委員：大阪府土木部交通道路室

大阪府茨木土木事務所

大阪高速鉄道(株)

協力
委員

- 茨木市
- 大阪府茨木警察署
- JR西日本鉄道(株)
- マイカル茨木

アドバイザー協力：大阪大学工学研究科 新田保次教授・同研究室

広報PR

■ 9月下旬から事前告知、10月下旬再度ちらし、ポスターの配布・掲示による広報活動を行った

